

平成 22 年 2 月 26 日

清水町議会議長 田 中 勝 男 様

清水町議会総務文教常任委員会
委員長 口 田 邦 男

所 管 事 務 調 査 に つ い て

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 清水高等学校振興会への支援について

2. 調査期日 平成 22 年 2 月 2 日

3. 調査の結果

はじめに、教育委員会教育課職員から清水高等学校振興会設立の経過と平成 21 年度の活動状況の説明を受けた。

同振興会は、清水高校が平成 9 年 4 月に総合学科へ転換されるのに伴い、清水高校が将来とも魅力ある高校であるために各種支援活動を行う目的で平成 8 年 6 月に設立された。主な活動は、高校の支援・協力・啓蒙活動をはじめ、関係機関への陳情活動、町内の小・中学校との連携支援活動等を継続実施している。

町では、同振興会の運営費として、平成 20 年度は 72 万円を補助、学校案内パンフレット作成・学校紹介ポスター作成・学校通信の発行等の経費に使われており、平成 21 年度は政策的予算

として100万円増額されている。補助目的は、従来の経費に加え、4間口の維持、更には卒業時の身分保障を更に確実にするための進路強化として資格検定料及び進路別講習テキストの補助を行う予定で、平成21年度実績では、ほぼ全生徒にあたる延べ931名が63項目の能力検定等を受験しており、補助金によって父母負担の軽減が図られている。

清水高校は現在4間口で、選択できる科目は普通・専門科目を合わせて88科目が設定されているが、間口減になると現在の科目維持が難しくなるため、今後も清水高等学校振興会補助を継続的に行い、生徒の多様な能力適性・進路希望等に応じて普通教育と専門教育に関するさまざまな科目が選択でき、幅広い進路希望に対応可能となる総合学科の維持・存続に向けて力を入れていかなければならないとのことであった。

引き続き、清水高校を訪問、学校長から学校の現状等の説明を受けた。

清水高校は、平成9年から総合学科に転換し、この3月の卒業生が11期生となる。現在の生徒の状況は、町内中学校の約40パーセントが清水高校に入学しているが、西帯広地区や芽室町からの通学も増えており、更にはアイスホッケーで十勝管外からの生徒も入学している。

同高校の必修科目は、基本的に普通科高校と同じ科目であるが、進学・就職等の進路に応じた5つの系列があり、「人文科学系列」と「自然科学系列」はほとんどが進学対応の科目群、「情報ビジネス系列」は商業系・情報系の科目群、「人間生活系列」は介護・福祉・看護の科目群、「生産技術系列」は農業・工業・林業の科目群となっている。また、同高校総合学科の特徴ともいえる原則履修科目の「産業社会と人間」は、自分がどういう職業に向いているのか、その職業に進むにはどういう選択が必要か等、将来の進路への自覚を深めさせる科目となっている。

同高校の職員数については、普通科４間口の高校より教員は８人加配されているが、一人の教員が受け持つ教科が多いため、労力は高くなっている。

北海道の総合学科は現在１２校で、来年度以降に２校導入され、平成２３年度末で１４校になる予定だが、総合学科についてはＰＲ不足や北海道は特に面積が広いということが課題となっていることから、現在、道教育委員会で総合学科が１０年経過してのアンケート調査を取りまとめ中であるとの説明があった。

清水高校としては、現在まで地元の協力により４間口を維持してこられたが、近年、進路における進学希望の生徒が増加しており、基礎学力の向上、選択科目の類似性を整理し、地域性を踏まえバランスの取れた総合学科を目指し、更に今後も４間口維持に努めていきたいとのことであった。